

【生薬名】五味子 *SCHISANDRAE FRUCTUS*

【起源植物】チョウセンゴミシ *Schisandra chinensis*



<http://www.ne.jp/asahi/moto/tより引用>

【科名】モクレン科 *Magnoliaceae*

【別名】北五味子

【薬用部分】成熟果実

【主成分】リグナン(シザンドリン、ゴミシン)、精油、有機酸

【薬性】気味は酸温、帰経は肺腎に属す

【効能】●斂肺滋腎・生津斂汗・渋精止瀉

●滋養強壯に1日3~5gを煎服か、薬酒を1日30ml飲む

●『五味子酒』:五味子300g、グラニュー糖300g、ホワイトリカー1.8ℓ、2-3ヶ月

●収斂性鎮咳去痰薬として1日3-10gを煎服、咳嗽を頻発し薄い痰が出たり、咳して浮腫みのある時に、処方例は小青龍湯

●ゴミシンAには中枢抑制、鎮咳、抗アレルギー、抗炎症作用があり、肝障害によるGOT、GPTの上昇を抑制し、肝細胞膜安定化作用に基づくと考えられる肝機能改善作用、障害肝の修復・再生促進を有す

●五味子には漏れたり出過ぎたりする状態を出さないようにし向ける作用がある、この作用を収斂作用という

●肺を補い、腎を益する要薬で、能く肺氣を斂め、咳を止め、腎精を固め、渴を止める。

【出典】●五味子 酸温、津を生じ、渴を止め、久嗽、虚勞、金水枯竭。(薬性歌)

●益氣、斂逆上氣、勞傷羸瘦、補不足、強陰益男子精。(神農本草經上品)

●主治咳而冒者也。(薬徴)

【備考】●味に五味あることから五味子と呼ばれるようになった

●サネカズラ(ピナンカズラ)は南五味子と称し五味子の代用とする

●アルコール抽出区画には肝障害改善物質がふくまれ肝炎や肝硬変に中国では製剤化され臨床に応用されている

【処方例】●小青龍湯、苓甘姜味辛夏湯、苓桂五味甘草湯、生脈散、都気丸